

氏 名：田所 由利子
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 155 号
学位授与年月日：2017 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）
副査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）
副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）
副査 篠原 一之（長崎大学教授）

論 文 題 目：Effects of clary sage and lavender or jasmine essential oils infused in a foot bath for labor induction on oxytocin level

博士論文審査結果

本研究は、陣痛誘発に用いられるクラリセージとラベンダー精油を希釈した湯、ジャスミン精油を希釈した湯による足浴と精油を使用しない湯での足浴との比較により唾液オキシトシン値、コルチゾール値など比較した。その結果、クラリセージ・ラベンダー群において足浴後オキシトシン値は、足浴前と比べ有意に増加することが認められた。ジャスミン群、精油なし群においては、有意差は認められなかった。群間比較においてはオキシトシン変化量に有意差は認められなかった。足浴後のコルチゾール値は足浴前と比べ各群内において有意に低下した。

審査においては、主に 3 点について議論された。第 1 に、測定指標としての唾液オキシトシン値に関する分析と解釈について疑問が出された。介入前に高値を示す者、増加または減少の変化量が大きい者について、層化して分析をすることが提案され、その結果について追記された。また、唾液オキシトシン値は個人差が大きく精度に課題が残されていることについての考察が求められ、追記された。第 2 に、コルチゾール値の変化に関する考察の追記であった。足浴によってコルチゾール値は低下したが、その理由およびオキシトシンとの関係についても言及することが求められた。第 3 に、今後の研究への示唆として、介入量（足浴の回数や時間）、他の介入との組合せの可能性、クラリセージとラベンダー精油と陣痛発来メカニズム等に関して疑問が出されたが、これらの点について適切に述べることができた。本研究は、今後のアロマセラピーに関する研究の基盤となる重要な研究であることが評価された。

膨大な文献を丹念に吟味し、本研究の理論や概念枠組みを作り上げていった。様々な指摘に対して一つひとつ丁寧に対応し、常に安定した態度で、粘り強く真摯な姿勢で研究に取り組むことができた。以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。